

## つなげよう、次の世代へ

### ―県民児協設立50周年記念シンポジウム開催

昭和44年6月、民生委員制度創設50周年を契機に、県下の民生委員児童委員が団結して神奈川県県民生委員児童委員協議会(以下、県民児協)を設立しました。

今年で設立50周年を迎え、この節目に役員等を経験した先達者から体験談や活動の中で大切にしてきた想い等を聞き、参加者が改めて自身の活動を振り返り、次の世代へ伝えていくことを考える機会とするため、6月28日、記念シンポジウムが県社会福祉会館で開催されました。

シンポジストには県民児協顧問の鈴木立也さん、元会長の小松輝



シンポジストとして登壇された県民児協顧問の鈴木立也さん(①)、元会長の小松輝男さん(②)、元副会長の金田和子さん(③)



写真版タイムカプセルに見る参加者の様子

男さん、元副会長の金田和子さんが登壇。鈴木さんからは、やるからには責任を持ち、でも時には肩の力を抜いて「いいかげん(良い加減)にやる」という活動の姿勢、小松さんからは守秘義務や委員の選任方法を切り口にした社会的信頼の重要性等、金田さんは「自分が困らない程度の人への親切」という視点や、公私の悩みごとについて同じ地域の民生委員児童委員で相談しあったこと等仲間の大切さについて、それぞれの体験などを交えながら話されました。

続いて行われたアトラクションでは、「私たちの委員活動を次の世代へつなげよう」をコンセプトに各市町村の活動を画像、映像を通して伝えていく試みとして「写真版タイムカプセル」を上映。参加

者はスクリーンを通して、自身の関わった取り組みを懐かしんだり、他の地域の取り組みに驚いたりしながら、思い思いの時間を過ごしました。

社会や地域課題の変化に活動内容や方法に対応させることが求められる一方、地域住民の身近な支援者としての役割とそれを必要とする人々の存在は、いつの時代も変わることはありません。

コーディネーターを務めた聖徳大学教授の豊田宗裕さんは「民生委員制度は世界に例がなく、それ

が国の制度として100年続いていることには大きな意味がある」と解説。時代

に合わせて活動内容や方法を少しずつ変えながらも、本来の役割を果たし続けてきたことで地域福祉の醸成に貢献してきた歩みとその意義を、社会や次の世代に伝えていく必要があることを改めて確認する機会となりました。

#### (企画調整・情報提供担当)



解説する豊田宗裕さん

## 県民児協キャラクター みんぴょんが誕生!

これから先を担う子どもたちにも分かりやすく民生委員児童委員を知ってもらおうと、設立50周年の節目に県民児協のキャラクターが誕生しました。

同日に開催された県民児協総会において、会長の金子直勝さんから名前が発表され、120件もの応募の中から選ばれた名前は、みんぴょん。「民生委員児童委員として寄り添うことを大切に」「優しさを常に持ち続けるように」「子ども達から親しまれるように」という、民生委員児童委員に対するさまざまな思いが込められています。

民生委員児童委員活動のPRやイメージアップのために頑張りますので、皆さんよろしくお祈りします!



みんぴょん

- ★誕生日 3月29日 **プロフィール**
- ★トレードマーク
- ・スカーフは地域のお助けマンの印
  - ・大きな耳は民生委員の“M”
  - ・しっぽはハートマーク♥
- ★名前の由来
- みんなのための民生委員児童委員として「みんな心をついに、みんなで助け合って、フットワーク良く、笑顔で、元気よく活動していきましょう」という思いが“ぴょんぴょん”と飛躍して広がっていくことを願って命名しました。

## ●子ども食堂が全国で増加

26日、全国にある子ども食堂が3,700カ所を超えたことを支援団体が公表した。昨年比で1.6倍の増加となり、小学校6校に食堂が1カ所ある計算となる。最も多かったのは東京都の488カ所。神奈川県は全国で3番目の数となる、253カ所であった。

## ●高校中退者の進路支援着手

県は2日、高校中退者の進路支援をサポートする事業を始める方針を公表。中退後の社会的孤立による引きこもりや貧困を防止するために総合相談窓口を設け、専門スタッフが進学や就職の相談に対応する。夏休み明けにも開始する見通し。

## ●虐待の安全確認、規定時間超過が8割

国が虐待通告から原則48時間以内に子どもの安全確認を徹底するよう促した昨年7月以降、児童相談所が設置された約8割の自治体で時間を超過していたケースがあったことが9日、共同通信の調査でわかった。

## ●県内初「バリアフリービーチ」

1日に海開きをした鎌倉市の由比ガ浜海水浴場で、県内初の「バリアフリービーチ」がオープンした。車いす利用者が通りやすいように動線が整備された他、土日祝日はライフセーバーが介助員として障害者のサポートを行う。8月31日までの開設。

## ●社会福祉施設の防災・避難ガイドライン改訂

厚生労働省は3日、都道府県や団体に対し、社会福祉施設の防災・避難対策について周知を求めた。改訂されたガイドラインでは、レベル3を「高齢者避難」、レベル4を「全員避難」として避難のタイミングを明確化。

## ●地域共生社会の実現を目指して新交付金を検討

厚生労働省は16日、市町村における相談支援体制の強化に向けて、新たな交付金の新設を検討することを公表。孤立、困窮など生活課題を抱える住民に対して、継続的な関わりを持つための基盤づくりが目的。

## Movement of welfare

### やさしさの おくりもの

女性相談員の方々は「相談をされる方がその問題に対する一番の専門家」と考え、相談者一人ひとりに寄り添った支援を大切にしています。またPRカードによる相談の周

知や、相談員のスキルアップのための内部研修会を行うなど、より良い支援に向けた態勢を整えています。さらに一昨年から事務所の隣に地域開放型の「スペースらいらっく」を開設し、住民やボランティア等の交流の場も提供しています。女性の自立と人権擁護のための花みずぎの取り組みが、今後ますます広がることを期待しています。

## ともしび基金の果実を活用した活動支援

### (N)ウィメンズハウス・花みずぎ

川崎市内にある(N)ウィメンズハウス・花みずぎ(以下、花みずぎ)は、女性と子どもたちの生活と自立を支援するための相談室を開設して今年で20年余を迎えます。花みずぎでは、電話や面接による相談に加え、生活に必要な衣食住の提供や、行政窓口のつなぎ役などの支援を実施しています。こうした取り組みの一つである「ライラック女性相談」では、毎週火・木曜日の午後1時から午後5時まで、経験豊かな女性相談員が無料で電話相談を行っています。昨年度より、ともしび基金の果実で支援している活動です。

相談者は10代から80代以上と幅広く、家庭や仕事、近所付き合いなどライフステージや周囲との関係性の中で生じるさまざまな悩みに対応しています。女性相談員の方々は「相談をされる方がその問題に対する一番の専門家」と考え、相談者一人ひとりに寄り添った支援を大切にしています。またPRカードによる相談の周



スペースらいらっくの利用方法については、花みずぎのHPでご覧いただけます。  
URL <https://joseisoudan.com/>

(地域福祉推進担当)